



鶺鴒つうしん

岐阜ダルクニュースレター令和元年冬号(73号)

ローマ教皇フランシスコ来日

特定非営利活動法人岐阜ダルク
理事長 浅井太郎



今年2019年11月は大きな行事がいくつかありました。11月23日から26日までローマ教皇フランシスコが日本を訪問されました。教皇の来日は38年ぶり2度目のことです。これに合わせて外務省は、これまでの「法王」から「教皇」へと呼称を変更しました。そして報道各社もこれに合わせて「教皇」と呼ぶようになりました。

また、天皇陛下の代替わりに伴って行われる大嘗祭の中核となる儀式、「大嘗宮の儀」が11月14日夜から15日未明にかけて執り行われました。

その意味で時代の節目となっています。しかし他方で、あいかわらず薬物で大物芸能人が逮捕されています。競争社会の激しさ、ストレス、核家族化、孤独、そういった負の環境的要因のなかで依存に陥ってしまう人が次から次へと出てきます。本人の心の隙間、弱さや闇が薬物に手を出す直接的な原因ですが、しかしながら、その心の闇を照らし、隙間を埋める充足感をもたらすのは、温かい周囲の人間関係のほずです。歴史的な変動のさなかにある今日、あらためて人と人とのつながりについて、ゆっくり、じっくり考え直す機会が必要です。

岐阜ダルク設立15周年フォーラムが、11月4日ぎふ清流文化プラザで行われました。テーマは「つながり」。参加者は400名位でした。今回のフォーラムでは一般の方が増えたようです。演劇が好評で、その時には満員で入れなかった人もいました。12月7日には岡山で、当地のダルク10周年記念の場でも劇を上演しました。演劇という表現方法が依存症からの回復に効果的に作用しているとすれば、実に幸いです。単にダルクを知ってもらえばかりでなく、演じる側と観る側とがより良い生き方を共に考えつつ、実際の癒しが得られることを願っています。

施設長だより

施設長 遠山香

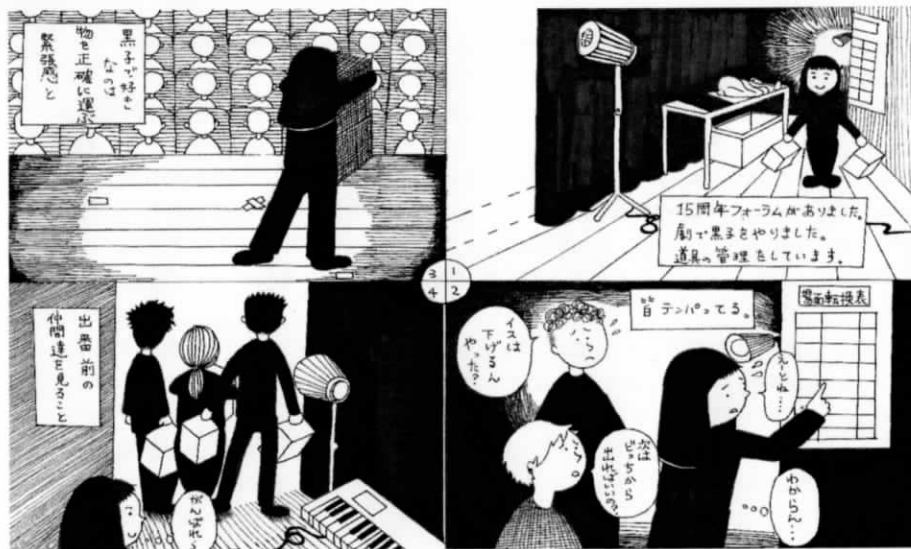


先日、夜10時頃、電車に乗った時のことです。

混んでいる人をかき分けて車両の中ほどに進んだところに空席を見つけ座りました。向かいの席に目を向けると、若い女性が酔いつぶれて長い黒髪がホラー映画の貞子のように顔にかぶさり、3人分ほどの席を占拠し横になっていました。ハイヒールの片方が脱げて両足を開いているため下着が見えてしまうかもしれないぎりぎりの状態で微動だにしないでいます。

女性のあられもない姿にギョッとしながら、何もできない自分に焦りを感じ座っていました。なんでみんな声をかけないだろうと、他人を悪者にする気持ちまで湧いてきました。だんだん人が少なくなっていく度に声をかけようと思いつつも行動できません。とうとう乗り換えの駅に到着しホームに降りました。ほとんどの乗客が下りてその車両にはその女性しかいません。この電車は次の駅が終点です。運転手さんが下りてきてその女性に気付きましたが、ちらちらと見るだけで声はかけません。『さあ、声をかけるなら今だ。揺り起こして、スカートのすそがはだけてるからちゃんと座って。酔っぱらっているからどうせわからないだろうなあー。下りる駅は過ぎてませんか?』頭に言葉が次々浮かぶだけで結局私は乗り換えの急行電車に乗り込みました。あの女性はどうなったんだろうか……気になりながら自分の勇気のなさに落ち込みました。

女性の姿はまさに過去の酔っぱらいの自分の姿でした。



(まんが執筆: アラちゃん)

後援会だより

暑い暑いクリスマス!?

岐阜ダルク後援会 会長 徳弘浩隆



寒い冬になりました。私も風邪をひいて2週間不調でしたし、ダルクの先日の集まりでは4人中3人がマスク!「誰が誰かわからない」は言いすぎですが、顔を見て表情を気遣いながら会話をするのは難しいところがあり、みんなの素敵な笑顔を見ることもできず寂しい思いもしました。

「南半球のブラジルのクリスマスはどうでしたか?」と今日も聞かれました。大きな違いは、暑さです。夏と冬が反対だからです。そう、クリスマスもお正月も猛暑です。ブラジルらしく?ミニスカート姿のサンタ服を着た飾りもありました。ただ、サンタさんは北半球と同じ服装。ショッピングセンターなどにはサンタさんと一緒に記念写真を撮るコーナーがあり、子どもたちが写真を撮るときサンタさんに欲しいものをこっそり聞かれ、係の人はメモと一緒に来た保護者に手渡し、お買い物もうちでしてくださいね、という段取りです。

「ホワイトクリスマス、白い息を吐きながら歩く年末」は地球の北半分に住む「私たちの勝手な常識」です。考えてみればそんな思い込みが、私たちの社会にはたくさんあります。そして日本の「和を重んじる社会」は、裏返せばみんなと同じ考え方、服装、生き方を無言で要求する「同化圧力」が高いと思われます。そこからくる生きにくさ、生き苦しさも、薬物依存などに至ってしまう原因の一つだと思います。

一人一人が尊重され、無理なく生きていくためには、多様性を認めることから。遠回りや失敗も許され、やり直しがきく社会。道を外れてお休みしても、もう一度戻れる社会。それは、社会や自分の「常識」を疑ってみて、自由になることから始めるとよいかもかもしれません。

女性ハウスだより

女性ハウス責任者 勇陽子



今年も残り少なくなってきましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。いつもたくさんの方に支えていただき感謝しています。

今年は、カメムシを秋ごろにたくさん見かけました。カメムシがたくさん発生すると、その年はとても寒いと耳に挟み、寒さ対策で早めに冬物を出したり温かく過ごせるグッズをネットで見たりにしていました。けれど、あまり寒さをひどく感じる日がまだありません。時々地球温暖化のことを考えて、近いうちに地球が壊れてしまうことを不安に思うことがあります。

女性ハウスでは、現在6名で過ごしています。今年の初めころに入所してきた仲間は、ずいぶんダルクのプログラムに慣れてきている様子です。その他の仲間たちも仲間のサポートを通して自分の問題に向き合っています。私自身、薬やアルコールは止まっていますが内面の成長に取り組む必要があることを先ゆく仲間に話をしてもらい、自分も確かに不安で生きづらいつと感じることがあり、もう一度プログラムをやり直すことにしました。このプログラムをいつからでもやり直すことができるのが、とてもありがたかったです。そしてそれを必要な仲間を手渡ししていけるようになりたいです。

自分や仲間を通して回復していくには、時間をかけて焦らずやっていくことも必要だと感じます。早く次のことをしたい、早くこうしていきたいと急いでプログラムを終わらせたい気持ちになりますが、私自身中途半端は役に立ちませんでした。

なので、今現在自分の目の前にあることに一つ一つ取り組んでいこうと思います。

これからも女性ハウスにいる仲間と一緒にいろんな経験をして、古い生き方から自由に生きていけるようになれたらいいなと思いました。感謝の内に。

11月4日(月) 岐阜ダルク15周年フォーラム ～つながり～

講演 朝日大学法学部長 大野 正博 教授

大野先生のお話は大変分かりやすく、共感できたと
言う声をたくさんいただきました！

- ・大変良かった。反省は一人でもできる、回復は一人では進まない。家族会に参加するたび本人も含め家族も日々成長が必要と感じる。また、自分だけでなく周りのつながりの大切さを感じる。(60代 男性 依存症者の家族)
- ・厳罰から社会対応型の法律への変更の重要性を痛切に感じました。社会からの援助や協力が当たり前になるように変わればと思います。(60代 男性 依存症者本人)
- ・大野先生の講演で、「回復」ではなく「再出発」という言葉があり、そのとおりだと感じました。(20代 女性 学生 依存症者本人)
- ・大野先生の話は、とても分かりやすく最近の事例や松本先生の意見なども盛り込んだ、とても良い内容でした。(60代 男性 依存症者本人)
- ・刑の役割とは何かと考えさせられた。依存症全体の話として参考になる話も多かった。(60代 男性 一般)
- ・大野先生のお話は共感できる思いがたくさんあり、参考となりました。(50代 男性 行政関係)



岐阜保護観察所 長尾 和哉 所長



岐阜ダルクを支援して下さる様々な
分野の方から貴重なお話をいただき
ました！



陶芸家 中村 崇 先生

座談会 各ダルク代表によるトークセッション

・弱さが人の役に立つ、弱さが価値。言葉にならない思いをお土産に頂いて持って帰ります。(50代 女性 依存症者の家族)

この度は408名の方にご参加頂きました。駐車場の数が足りなくて、お帰りになった方が多数いた事がわかりました。大変ご迷惑をお掛けした事を、改めてここでお詫言いたします。



演劇「つながり」

仲間の経験に基づいて作成した物語を、ボランティアの演出家、島源三先生のご指導の下、この日のために仲間たちと稽古を積み重ねてきた。大勢のお客様に見守られている緊張感の中、私達は劇を通してメッセージを届けるために全力でお芝居をしました。



おかげ様で大好評でした！半年間、仲間達と力を
合わせて努力してきた本当に良かったです。

- ・演劇で涙が止まりませんでした。ぜひ、高校や大学でもやって頂きたいです。(40代 女性 行政関係)
- ・前回の演劇より良かった。練習大変だったでしょうね、これからも期待しています。(50代 女性 保護司)
- ・劇を見せて頂いて愛、つながり、仲間の大切さをとても良く感じる事が出来ました。(50代 女性 一般)

仲間の話



体験感を話すのは初めての経験でした。演劇直後会場がじんわりと温かい気分が包まれている気がして、落ち着いて自分の正直な話をする事が出来ました。(てっちゃん)



この度は、皆様よりたくさんのご寄付、お祝い金をいただき誠に有難うございます。皆様からお寄せいただいたご厚意は岐阜ダルクの活動資金として大切に活用させていただきます。

陶芸販売 22,000円 書籍販売 13,200円
募金活動 109,922円 合計 145,122円

- ・「ミーティングは自分に会う時間」という言葉が心に残りました。(30代 女性 行政関係)
- ・仲間の話に勇気をいただき自分も勇気をもって回復していこうと思います。(50代 男性 依存症者本人)
- ・「つながり」の大切さ、仲間、支援して下さる方の大切さが改めてよく分かりました。(40代 男性 就労継続支援A型事業所)
- ・家族会、ナラノ、フォーラムと参加してみて、気持ち、考えも変わっていている様に感じます。(60代 女性 依存症者の家族)
- ・ダルクの人たちがうらやましい。笑顔やハグがいつでも貰える。いつでも帰れるところ、相談できる人がいる。(40代 男性 依存症者本人)
- ・本当にあたたかいつながりを感じられるフォーラムでした。ますます、つながりの輪、命の輪を続けていって下さい。(60代 女性 教育関係者)
- ・愛を育て、正しい方向に向かって生きることにつながることを学ばせていただきました。ダルクの存在の必要性を強く感じます。(70代 女性 保護司)
- ・真面目で繊細な方々の心からじっくり絞り出すような言葉ひとつひとつの正直な思いに、胸の奥が痛くなるような思いがしました。(50代 女性 保護司)

感謝してるわんっ！

ステフ

ロズ



アンケートのご協力
ありがとうございました。
皆様からいただいたご感想、ご意見、ご要望は私たちの今後の活動の参考とさせていただきます。

- 9月
- 5~8 自助グループコンベンション参加 7 薬物電話相談日
 - 9 岐阜県立山県高等学校講演 10 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 11 各務原病院メッセージ 12 ヨーガプログラム、薬物電話相談日
 - 14 薬物電話相談日
 - 17 岐阜刑務所薬物離脱指導参加、保護観察所における薬物乱用防止プログラム、ステップアッププログラム(以下 ステップアッププログラム)
 - 18 岐阜ダルク後援会 19 避難訓練
 - 20 ステップアッププログラム
 - 21 フラワーセラピー、薬物電話相談日
 - 22 カトリック刈谷教会にて活動紹介、岐阜ダルク家族会
 - 24 ステップアッププログラム 26 ヨーガプログラム
 - 27 陶芸プログラム、ステップアッププログラム
 - 28 薬物電話相談日
 - 29 同慶福音大塚キリスト教会・大塚ルーテル教会にて活動紹介
 - 30 男女共同参画推進サポーター交流会参加
※毎週水曜日バソソコ教室

- 10月
- 4 笠松刑務所薬物離脱指導 5 薬物電話相談日
 - 6 カトリック八幡教会にて活動紹介
 - 9 薬物電話相談日、各務原病院メッセージ 12 薬物電話相談日
 - 13 カトリック緑ヶ丘教会・アガペーチャーチス岐阜チャペルにて活動紹介、岐阜ダルク家族会
 - 15 岐阜刑務所薬物離脱指導参加、ステップアッププログラム
 - 17 坂祝町立坂祝中学校講演、ヨーガプログラム、岐阜刑務所社会復帰支援指導
 - 18 ステップアッププログラム
 - 19 薬物電話相談日、フラワーセラピー
 - 20 カトリック岐阜教会バザー手伝い、名古屋グリーンチャーチにて活動紹介
 - 21 ステップアッププログラム 23 岐阜ダルク後援会
 - 24 ヨーガプログラム
 - 25 ステップアッププログラム、陶芸プログラム
 - 26 薬物電話相談日、自助グループハロウィンパーティー、スルダルクフォーラム・九州ダルクフォーラム参加
 - 27 カトリック福見教会・カトリック多治見教会にて活動紹介、岐阜ダルク家族会
 - 28 ステップアッププログラム 29 笠松刑務所薬物離脱指導
※毎週水曜日バソソコ教室

- 11月
- 2 アバリ20周年記念フォーラム・京都ダルクフォーラム参加、薬物電話相談日
 - 3 日本キリスト教会岐阜教会・カトリック津島教会にて活動紹介
 - 4 岐阜ダルク15周年フォーラム
 - 5 ステップアッププログラム
 - 6 笠松刑務所薬物離脱指導 8 ステップアッププログラム
 - 9 薬物電話相談日
 - 10 いびがわつろソン2019、ルーテル岐阜教会バザー手伝い、岐阜ダルク家族会
 - 12 ステップアッププログラム
 - 13 各務原病院メッセージ、薬物電話相談日
 - 14 ヨーガプログラム 15 ステップアッププログラム
 - 16 各務原病院アローグループ・オープンスピーカーズミーティング参加、薬物電話相談日、フリーマーケット(岐阜競輪場サイクルフェスティバル2019) ムーミンマラソン
 - 19 私立名古屋高等学校講演(高校一年生)、ステップアッププログラム
 - 20 岐阜ダルク後援会 21 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 22 岐阜県立高岡高等学校講演(高校二年生)
 - 23 フラワーセラピー、薬物電話相談日
 - 24 カトリック岐阜教会チャペルコンサート、岐阜ダルク家族会
 - 25 地域支援連絡会議参加 25~26 JCCA会議 在神戸参加
 - 26 薬物依存回復支援ネットワーク懇話会参加
 - 27 笠松刑務所薬物離脱指導
 - 28 ヨーガプログラム 29 陶芸プログラム
 - 30 びわこダルクフォーラム参加
※毎週水曜日バソソコ教室

- 12月
- 3 岐阜刑務所仮釈放前教育
 - 7 岡山ダルクフォーラム参加、薬物電話相談日
 - 8 カトリック岡崎教会・東部教会にて活動紹介、岐阜ダルク家族会
 - 10 笠松刑務所薬物離脱指導、ステップアッププログラム、歳末助け合い援助事業助成金贈呈式
 - 11 各務原病院メッセージ 12 ニュースレター発送作業
※毎週水曜日バソソコ教室

※11月24日に開催したチャペルコンサートには、100人を超える皆様にお集まりいただき本当に嬉しく思っております。当日の様子は次の新年号で掲載致します。

仲間の体験談

まな

私は小さい頃から言いたい事が言えない、人からの承認欲求が強いというところがありました。本当は母親に甘えたいけど、姉に遠慮して勝手に我慢しては、自分は甘えなくても生きて行ける強い人間だと思いこんで、信じるものは自分だけだと思っていました。物心ついた頃から2歳上の姉が非行に走りだして、私の家族は姉中心に荒れだしました。そこでも自分は自分の気持ちにフタをしてきました。私が高校2年生になった時、私は性犯罪の被害にあいました。その事を誰にも言えず、私は姉の部屋から覚せい剤を盗んで使いました。薬物の使用はどんどんひどくなって、看護師をしながら薬代欲しさに風俗で働きながらとにかく使いまくりました。使いすぎて何度も精神病院に入院しましたが、薬は止まりませんでした。そして27歳の時に他県のダルクにつながりました。そこでも薬の再使用は止まらず、今年の2月に岐阜ダルクにつながりました。

今まで薬をやめたくてもやめられずに何度も再使用してしまい私はやめられない人間だと思いました。岐阜に来て最初はなかなか希望がもてずにいました。今でも薬を使わずに生きていくこと、感情と向き合うことはとても苦しくて、楽しいことばかりではないと思いますが、きっとプログラムをやれば幸せになれると、今は希望をもって自分なりに取り組んでいます。今まで関わった仲間や、一緒にプログラムを共にやっている仲間の姿を見させてもらって、希望が持てるようになりました。今までも、今もまだ、自分は自分のことばかり考えて、人に対しては嫌われたくないという恐れが強いです。地元から一大決心して岐阜にきたのですから、これが最後のチャンスだと思って頑張りたいです。

てっちゃん

私は両親のもとで18才まで実家で大切に育てられました。大学で上京し、そのまま東京で大手銀行に就職しました。私の人生の表看板は「順風満帆のエリート」でしたが、その裏側では自分がゲイである事に強いコンプレックスを感じていました。30才を過ぎると私はどんどん生き辛くなっていきました。結婚してゆく友達の前から姿を消したくなりました。33才でHIV感染を知り、もう自分に価値が無くなったと思いました。

35才の頃、出会い系サイトを通じて覚醒剤を知り、何の躊躇もなく使うようになりました。楽しくて仕方がありませんでした。でも2年間でコントロール不能に陥り、生活はメチャクチャになり、借金を抱えたあげく、職質で逮捕されました。その後、5年間薬を使う事はありませんでした。だから、私が覚醒剤を使ってしまったのは、ほんの出来心で単なる一過性の問題だったと考えました。

42才になった私は再び薬を使い始めました。気晴らしに出かけた夜の街で明らかに薬を使っていると思われる相手と出会った瞬間、強烈な薬への欲求が眠りから覚めたように湧いてきたのです。連続使用するのに時間はかかりませんでした。自己のコントロールを失い、次々に事件を引き起こして多くの人を傷つけました。その最中に両親が相次いで死にました。狂気の息子が2度目の逮捕で遂に刑務所に送られる姿を見たくなかったんです。

私が岐阜ダルクにつながったきっかけは、留置所にダルクのスタッフの方が面会に来て下さったことです。差し入れて下さった小冊子をむさぼるように何度も読み返しました。とても大切な事が書かれている気がしたのでした。

今ダルクに来て5ヶ月がたちました。私が覚醒剤にハマった本当の理由を探しています。毎日、仲間が話す経験の分かち合いに耳を傾けています。



「つながり」の重要性

朝日大学法学部長・大学院法学研究科長

大野 正博



まずは、岐阜 DARC 創立 15 周年、おめでとう御座います。

さて、突然であるが、市民は、薬物乱用者に対し、求めるものは、「刑罰」なのであろうか、それとも、「回復」なのであろうか。私は、研究者として、スタートしたときから、「薬物事犯」に対する捜査手法の適否をテーマとしてきた。その過程で、薬物乱用者に対し、「刑罰」を科して「回復」するのであれば、「刑罰」も重要であろうが、覚せい剤取締法違反成人検挙人員中における「同一罪名再犯者」の高さからすると刑事司法によって、薬物乱用者が「回復」することは、事実上、困難なのではないかと感じていた(『犯罪白書(平成30年版)』196頁では、66.2%となっている)。つまり、薬物乱用者に対し、「刑罰」を科しても、刑務所人口を増やすのみであって、少なくとも薬物依存症者に対し、薬物の再使用を抑止する効果が薄いことが明らかなためである。松本医師も、「覚せい剤依存症者の覚せい剤再使用は刑務所出所直後」がもっとも多く、「刑務所等に収容し、薬物へのアクセスを物理的に遮断しても意味がなく、それどころか、隔離を解除した後の悪化を覚悟しなければならない」と指摘されるが、正鵠を射ているであろう(松本俊彦「編著『助けて』が言えない SOS を出さない人に支援者は何ができるか」58頁)。厚生労働省も、平成20年8月に決定した「第3次薬物乱用防止5か年戦略」以降、医療体制の充実や民間団体等との連携強化が盛り込まれ、平成30年8月に策定された「第5次薬物乱用防止5か年戦略」においても、薬物乱用者に対する適切な治療と効果的な社会復帰支援による再使用防止を謳うようになってきていることから明らかなように、「刑罰以外の方法」も含めた形での対応を実施するように変化してきている。しかし、市民の多くは、相変わらず、薬物乱用者が、「薬物をやめられない」と訴えれば、「反省が足りない」、「意志が弱い」と批判し、それらの者を排除することによって、問題を解決できるのではないかと誤解し続けているのではなかろうか。

誰も生まれながらにして、薬物の乱用を望む者はおらず、乱用に至るまでの経緯や抱える問題は様々である。このようなそれぞれの抱える根本的な問題を取り除かなければ、薬物の再使用を避けることは困難なのである。そのためには、市民の「おせっかい」が必要なのではないかと考える。上記の「薬物乱用防止5か年戦略」は、なお刑事司法制度の枠組みのなかでのものでしかないように感じられてならない。薬物乱用者本人やその家族が求めているものではなく、あくまでも社会のニーズを充たすことに重点があるのではなかろうか。薬物乱用者本人やその家族の多くは、自身が必要としているものを求めることが非常に苦手であるように思われる。そのため、ストレスが増大する、あるいは間違った選択をすることにより、薬物の再使用に繋がってしまう。そうであるならば、市民がさらに薬物依存症に関し、さらに理解を深め、地域で支える体制を作ることが必要であろう。松本医師が、「薬物依存症から回復するうえで、何よりも重要なのは、薬物をやりたくなくなったときに『やりたい』という気持ちを援助者に言葉で伝え『やってしまった』『やめられない』と正直に言えることである」(松本編著・前掲59頁)と述べられるように、薬物依存症者の「回復」にとって、何より大切なことは、「安心で安全な場所」を社会が提供することなのである。

人は、誰でも過ちを犯すが、そのままの状態にいることは決して望ましいことではない。薬物依存症者にとって、「回復」とは、単に「元の状態に戻る」ことを意味するのではなく、過ちも含め、「再出発(restart)」をすることであると私は考える。そのためには、仲間とつながり、そして社会とつながり続けることが、重要であろう。薬物乱用者を含め、社会の弱者が生きやすい社会にしていくことが、これからの時代、さらに求められる事柄なのであり、そのために私も微力ではありますが、研究者の1人として、声をあげ続けたいと思う。

ご支援・ご協力をいただき心から御礼申し上げます

献金者名(令和元年8月20日～令和元年11月21日)敬称略

金沢聖霊修道院 田口大輔 渡辺眞帆 山科正太郎 各務原地区更生保護女性会・西村比召子 北谷雅春 齊藤栄子 藤本弘 木下容子
伊藤直美 河合潔 土岐保護司会・保護司・加藤勝史 大竹幸子 川口清子 角平聖一・由美子 有安祥子 弁護士・伊藤知恵子 服部
正博 弁護士法人・神谷法律事務所・代表社員・神谷慎一 中西東峰 村中和代 カトリック津島教会 山下民男 藤江功 樹の会・加
藤洋子 服部正博 岩佐達男 大垣病院 福島春美 清水宗夫 中京大学スポーツ科学部・家田重晴 伊藤晴吉 援助修道会・名古屋修
道院 田中勇 伊藤潤子 深堀芽子 福田修 清水隆 木村暢男・薫子 樹の会・会長・平尾公子 武藤晏子 みのかも法律事務所・林
真由美 樽田邦自動車株式会社 高富グレイスチャペル・金森洋三 小田泉 鎌田憲子 小栗信行 岐阜県保護司会連合会・会長・岩田
輝雄 更生保護法人・岐阜県更生保護事業協会・理事長・高橋征利 岐阜カトリック教会・主任司祭テラー・ブライアン 笠松希代
美 岐阜キリスト教会 武内栄子 菅沼登志子 川上正行 山本亮 樹の会・松坂幸幸 阿部賢彦 村越好男 岩田恭子 松田和恵 岐
阜野宿生活者支援の会 株式会社リサイクル宮嶋ABC 土岐保護司会 医療法人 岐阜勤労者医療協会・理事長・岩井雄司 澤田透 所
紀代香 永嶋恵美 光楽英生 森雅明 佐藤武彦 不破達生 田代裕希勇 出井武史 土田由喜子 養清興業株式会社 村松宏幸 橋
本博 嵐田宏之 匿名者多数

活動紹介による献金(令和元年8月20日～令和元年11月21日)敬称略

日本福音ルーテル岡崎教会の皆様 カトリック刈谷教会の皆様 同盟福音大垣キリスト教会の皆様 カトリック八熊教会の皆様 カト
リック緑ヶ丘教会の皆様 アガベチャーチ土岐チャペルの皆様 名古屋グリーンキリスト教会の皆様 カトリック津島教会の皆様 カ
トリック稲沢教会の皆様 カトリック多治見教会の皆様 可見福音教会の皆様 掛斐キリスト教会の皆様

献品者名(令和元年8月20日～令和元年11月21日)敬称略

渡邊麻理 松田和恵 カトリック岐阜教会・近藤治道 澤田透 飛騨高山教会 古藤みづ子 翠博 柳原清盛 根本千賀
子 岡本敏孝 所紀代香 木下容子 寺木喜美子 酒向秀子 萩永知子 江崎宏 海津市更生保護女性会 大口篤 海津
市保護区保護司会 高山朋子 匿名者多数

※お名前の記載につきましては注意を払っておりますが、万が一お名前の誤字・脱字または記載漏れなどございましたら、誠に
申し訳ありませんが、ダルクまでご連絡をいただきますようお願い申し上げます。

※発送作業簡略化のため皆様全員に振込用紙を同封させていただいておりますことをご了承下さい。また匿名希望の方は、
恐れいりますが、その旨を振り込み用紙通信欄にその都度ご記入下さいますようお願い致します。

◆献品のお願い◆ 皆様からたくさんのお金をいただきました。本当にありがとうございました。

また、無くなった時にはお願いたしますので、その際にはぜひご協力をお願い申し上げます。

クレジットカードでご寄付いただけるようになりました

このたび、岐阜ダルクの活動資金のご寄付が、クレジットカードでもできるようになりました。
右のQRコードをスマートフォンで読み込んでいただくか、「岐阜ダルク 寄付」で検索して
いただくとクレジットカード寄付ページにたどりつきます。

岐阜ダルク 寄付



もちろん郵便振替用紙でのご寄付も従来通り受け付けさせていただきます

岐阜ダルク 郵便振替口座 00840-5-167752 岐阜ダルク後援会

岐阜ダルクでは施設の地代家賃、水道光熱費、専任スタッフの人員費等、毎月一定の固定費がかかる一方、「中間
施設」の性格上、きわめて財務基盤が不安定で、皆様方のご寄付が欠かせません。引き続きご理解とお力添えを
お願い申し上げます。

編集 特定非営利活動法人 岐阜ダルク
編集担当 岐阜ダルク後援会 徳弘浩隆 鈴木輝一郎
〒500-8175 岐阜市長住町7-3 TEL/FAX: 058-201-3555
Email: gifudarc2004@yahoo.co.jp

ホームページ: <http://www.gifu-darc.org/>
ダルク日記『今日もぐるぐる』: <http://darcblog.sblo.jp/>
2019年 岐阜ダルクニュースレター令和元年冬号 (No.73)
定価 1部 200円編集責任者 遠山 香
発行所 東海身体障害者団体定期刊行物協会
名古屋市中区丸の内3-6-43 みこころセンター

